### 戦国時代の授業(戦のほんとうの姿)

2014 · 9



#### 1 戦の中心は誰か?

戦国時代の武将は有名ですが、実は、戦の中心を担ったのは、そうした戦国大名 たちではありませんでした。雑兵と呼ばれる人々です。雑兵とは、正 式な武士ではなく、下級の兵士や使い走りの下人たちのことを雑兵と 言います。鎌倉時代との違いは、この兵士たちも武器を持つことがで きたことです。雑兵たちは、武器を各自持ち、少しの食料を持って、 大将のもとに集まりました。



そして、戦国時代になると戦は、集団戦になります。鎌倉時代のような一対一の 戦いではなく、集団で弓矢・ヤリ・鉄砲まで使った団体の戦争です。

戦の合図は、ほら貝・太鼓・鐘などの合図の音で始まります。さて、実際の戦い は、どういうものだったでしょうか。

戦国時代と言えば、武将たちが有名で、みなさんも大名たちの勇敢さや知恵にひ かれて、夢中になる人も多いのですが、戦国時代の普通の人々が、どういう生活を しているのか、それも大切なことです。

食べ物にあふれた今の時代とは全く違う厳しい時代の現実を知ることも大変重要 だと思います。

# 2 戦国武将たちを、知っている?

戦国時代〜安土桃山時代にかけての有名な戦国大名の名前を、確認しましょう。 下から選んで書きこんでください。

ほうじょうそううん たけだしんげん うえすぎけんしん いまがわよしもと もうりもとなり おだのぶなが とよとみひでよし とくがわいえやす (北条早雲・武田信玄・上杉謙信・今川義元・毛利元就・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康)

甲斐(山梨)の国	越後(新潟)の国	<sup>た が ふ</sup> (神奈川)の国	**。** 駿河(静岡)の国
騎馬隊・金山が有名 川中島の戦い	軍神、越後の龍 川中島の戦い	小田原城を攻め取る 関東では大きな勢力	att は st t は る t t の 戦 い で 織 田 信 長
(上杉謙信と)	(武田信玄と)		に負ける
<b>安芸(広島)の国</b>	尾張(愛知)の国	近江(滋賀)の国	<sup>みかり</sup> 三河(愛知)の国
(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)			
石見銀山を持ち、村上水	武田信玄と鉄砲隊で対決	織田信長の家臣として	関ヶ原の戦いで勝つ
軍も味方に持つ。 団結を誇る	(長篠の戦)本能寺の変	活躍。天下統一し、 信長の後継者となる	大坂の陣で豊臣家を滅ぼす



戦国時代の 北条 いろいろな国と領地

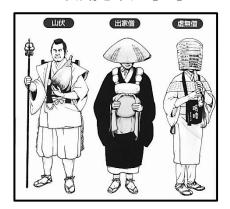
3	戦の	の準備を	·考えよ	う。						
さて	、戦	国時代の	戦につい	って、い・	つどこて	で、だ:	れがし	たものか	こ、をまずも	きえまし
う。	次の	クイズに	:答えなか	ぶら考え)	ていきま	ましょ	う。			
◆戦	で戦	ったのは。	どういう人	、たちでし	<i>、</i> ょうか。	○を付	けまし	ょう。いく	つつけてもい	いいです
	(	貴族	大名	武士	農民	女	性	子ども	お坊さん	)
◆戦	えをした	こ季節は、	.いつが多	らかったで	しょうか	.これ <del>も</del>	5○を	付けましょ	<b>:</b> う。	
	(	一年中	春	梅雨	夏	秋	冬	)		
◆戦	このたる	めに、下級	及の武士 <i>た</i>	きち(足軽	たち)は	、どんな	なもの	を準備し/	<b>こでしょう。</b>	
*	例えり	ず、あなた	こたちが、	校外学習	に行くと	<u>た</u> き、持	ってい	く物があ	りますが、こ	れが、戦
	だっア	たら、何を	:用意した	らいいで	しょうか。	。 絵でも	うく	でもいい	ので、思いつ	くものを
	書い	てみまし。	ょう。							
_										
-										

ょ

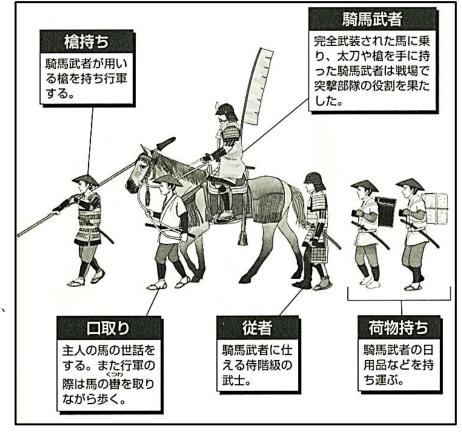
◆まず一つ目の答えから。戦で戦ったのは、貴族以外のあらゆる人々です。ですから、貴族以外、○が正しいのです。

武士はもちろん、農民も兵士として戦にかり出されました。女性も戦で活躍しましたし、子どもは、15歳以上が一人前に扱われました。100人の兵士のうち騎馬兵は10人程度で、残りは足軽などの身分の低い侍、馬を引き槍を持つ下人、もの運びの百姓などで雑兵と呼んでいました。お坊さんの中には、軍人もいたし、スパイとして各地を歩いた僧侶も多かったようです。その人たちの様子が、次のイラストで分かります。

#### ●お坊 さんのいろいろ



右の図を見て分かるように、 一人の騎馬武者には少なく とも5人程度の家来が必要 でした。



馬の世話をしたり、荷物や武器を持ったり、そういう人々が必要でしたし、いざというときには、これらの人々も戦いました。

◆二つめ、一番、戦が多かったのは、冬でした。冬は、今から考えると、寒かった り雪が降ったりするので、戦いたくなくなるのでは?と思うでしょうが、違う理由 で、冬が多かったのです。理由は二つあります。 ひとつは、農民たちが、農作業が無くてひまなこと。もう一つは食料が無くなる春 に備えて、食料を奪いに行ったこと。

新潟の上杉謙信は、20回以上戦争をしましたが、冬に出発して、関東に戦をしかけ、春まで新潟に帰りませんでした。これは、戦争しながら、食料を手に入れるためだったと考えられています。また、春や夏に田を戦で荒らされてしまうと、収穫できないので、春や夏にはほとんど戦が行われませんでした。

◆さて、足軽たちの戦の準備には、何が必要だったでしょう。これは意外に興味深いものです。次の道具などを見て、何に使われたのか、考えてみてください。



兵糧袋・打飼袋は食料

火縄とは、火縄銃で点火するときに使うなわ

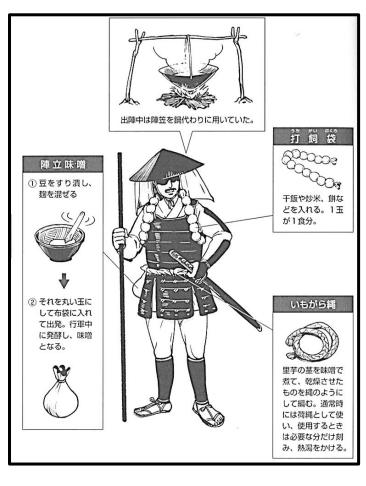
鉈(なた)・鎌(かま)・鋸(のこぎり)は、それぞれ、何もない野原で戦をやるとは限らないことがわかります。

火打道具はライター代わり

寝むしろは今の寝袋 にあたりますね

これらの装備を身に着けた足軽のよ

うすが次の絵です。どうやって、食料を食べていたかもよくわかります。陣笠をなべ代わりにして、煮ていたのです。また、食料は、三日分持ってくることが当然とされていました。四日目からは配給されました。



背中に付けて目印とした物を 旗指物と言います。



↑上杉謙信の陣の 旗指物 背中にさしている⇒



4	戦の実態(よ	うす)につい	て考えましょ	よう。次もクイズで。
---	--------	--------	--------	------------

- ◆戦国時代の武器で、一番多く使われたものは何でしょうか。 ( )
- ◆足軽たちが戦う時、どうやったら敵を倒すことができたでしょうか。

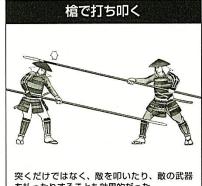
(

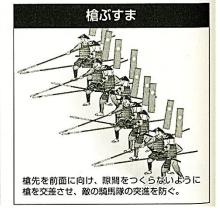
- ◆城に立てこもるのを「籠城」と言います。勝ち・負けどちらが多かったでしょう。 ( 勝ち ・ 負け その理由 \_\_\_\_\_\_\_)
- ◆戦にまき込まれそうになった村の人々は、どうしたでしょうか。○×で。
  - ( )荷物を隠したり、山へ逃げこんだりする。
  - ( )武士を逆襲する。
  - ()強い武士をたよって助けてもらう。
    - )あきらめて、巻き込まれるままにする。
- ◆戦でけがをした場合、どうやって治療したでしょうか。
  - ( )治療する暇などないので、放っておく。
  - ( )馬のフンを水で煮て飲ませる。
  - ( )弓矢の先や鉄砲の玉が体に入っても、そのまま放置した。
  - ( )温泉を作り、そこで治療した。

◆戦国時代の武器の中心は、 ヤリでした。

鎌倉時代と違って、集団戦法 が中心になり、足軽もよろい を着けるようになったため、 簡単に刀で敵を斬って殺すこ とができなくなりました。よ

### 🍘 足軽槍隊の戦法





を払ったりすることも効果的だった。

ろいのすきまを狙い、ヤリで、顔やのど・わきの下やマタ・太ももを突いたり、ヤ りで頭をたたき脳振とうを起こさせました。

- ◆足軽たちが勝つには、組打ちが大事でした。よろいや兜を付けた武士は、30 kg も の重さを身に着けているので、すばやく動けません。馬に乗った武士を、地面に 引きずり落とし、よろいのすきまに手を入れ、体勢をくずさせて、地面に組み伏 せることが一番有効でした。敵を地面に組み伏せれば、あおむけになった相手の のどに短刀を突き刺すことができます。
- ろうじょ ▶籠城は、負けが多そうにみえますが、戦国時代前期は勝つ場 合もありました。それは、春の農作業のために戦いをやめて、 敵が引き上げていったためです。

他の例でも、北条軍は城の周りを上杉軍に囲まれながら、半年も持ちこたえまし た。そしてあまりの長期戦に嫌気がさしていた上杉軍に、ニセの降伏文書を出して 油断させ、攻撃して上杉軍を大混乱にして打ち破っています。

- ▶戦が始まりそうになると、村の人々は様々な守りを実行しました。
  - ・巻き込まれないために、有力者にお金を払い、その金で、禁制という書類を手 に入れました。この禁制は、兵士たちに乱暴ろうぜきを禁じるものです。
  - ・財産に当たる穀物や家財道具類を、寺に預けたり、穴を掘って隠したりするこ ともしました。女性や子ども、老人たちは、山に避難しました。

その際に柴や竹などで村を囲み、立ち入れなくしました。神様に守られている という印です。これを逃散と言います。離れた村ならば、戦見物をする者もい ました。

- \*戦国時代のようすについては、NHKのタイムスクープハンターの番組がよく描いています。 特に、「禁制入手」と「戦国シェルター」がわかりやすいです。
  - 有名な映画の「七人の侍」は、侍を雇う村の話ですが、国人と呼ばれる武士が農民と一緒になって戦う一揆は、よくありました。生き生きと戦国時代の村の様子が描かれている名作です。

また、岩波書店の「戦国時代の村の生活」の絵本も、地頭方と領家方の争いに巻き込まれる村が描かれていて、一揆・逃散がイメージできます。

◆けがをした場合、今の時代のような治療は、もちろん行われませんでした。

馬のフンを飲ませたり、傷口に尿をかけたりすることが、実際に行なわれたようですが、悪化するだけなのは、当然といえば当然。

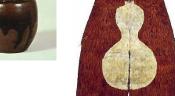
弓矢の先や鉄砲の玉が体に入った場合は、なるべく早く取り除かないと、体の中に、ばい菌が入り込んでしまうので、金ばさみで引き抜いたり、刃物で肉を裂いて取り出しましたが、麻酔は無いので激痛のあまり、気絶してしまう兵士もいました。

この中で、一番有効なのが温泉です。武田信玄も上杉謙信も秀吉も家康も、温泉を使っています。東京から近い伊豆の熱海温泉は、家康の秘湯でした。温泉の効能で傷を治したり、冷めた体を温めたり、温泉はとても役に立ったようです。今もそうした温泉が各地に残っています。

- |5| 戦が終わったら、どうなるのでしょう。こちらもクイズで。
- ◆戦で勝った場合は、武士たちは、どんな褒美をもらえるのでしょうか。 ( )
- ◆褒美をもらえるためには、どんな証拠が必要でしょうか。

- ◆戦で死んだ人々は、どうなったでしょうか。
  - ( )専門の業者に頼んで、後始末をしてもらった。
  - ()それぞれそのまま放置された。
  - )負けた方の軍が後始末をした。
  - )近くの村の人々がかわいそうに思って、埋めてあげた。
  - ()それぞれの軍が味方の兵の遺体を引き取り、故郷に大切に埋葬した。
- ◆戦で負けた人々はどうなったでしょうか。
  - ( )負けた側は、名誉の死の「切腹」は禁止された。
  - ()処刑され、町の中で首をさらされることもあった。
  - )農民たちは許されて村にもどり、年貢を払わされた。
  - )捕虜とされて、奴隷のように売られていった。
  - ( )逃げる途中で村人に襲われて、死亡することも多かった。

時には、武士たちは、土地よりも、大名お気に入り の物をもらうことが名誉だったので、とても喜びまし



た。例えば、愛用品の刀や陣羽織などです。信長は、よく茶道具を

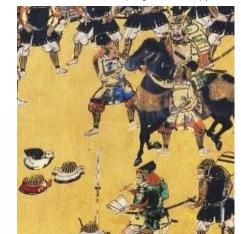
羽毛製・秀吉の陣羽織

また、戦で誰がどれだけ活躍したか、その記録を取るために、実は、専門の武士がいました。戦の中で旗指物を見ながら、記録していったようです。その係を 軍監と言い、重要な役目でした。

それ以外は、打ち取った首を陣まで持って帰り、確認しました。首は、水でよく洗い、髪を 整え化粧までさせて、ていねいに扱いました。

家臣に与えました。

特に、大将の首は、首実検と言って、特別な 作法でしました。首の持ち方まで、くわしく決 められていました。



首実検の図=左の兜三つが首。右下に記録を する武士、右上に大将が馬に乗り見ている。

一方、足軽の首は、テントの外にひとまとめにされるだけでした。確認した後 首は、敵に送り返されました。 ◆戦死者の大半は足軽たちでしたが、その亡くなった遺体は、専門家集団によって 集められ、まとめて埋葬されました。その集団を黒鍬者と呼んだ そうです。この人々の本来の仕事は、土木工事です。例えば、 戦の最中も必要があれば、道路を補修したり、橋を築いたり、 砦を築く仕事をしています。そして、戦のあとに、埋葬する仕

事もしたのでした。ただ埋めるだけではなく、近くの寺の僧たちが念仏を唱えて手厚く葬りました。近くの村の農民たちが、たたりを恐れて、供養したこともあったそうです。

◆生き残った人たちはどうなったでしょう。勝った側と、負けた側では、天地の差ほどの違いがありました。

負けた側の身分の高い武士は、処刑され首をさらされた者もいれば、切腹や流罪 を申し付けられる者もいます。

一方、勝った側の雑兵たちは、戦場で、乱暴ろうぜきを働いても許されました。 村を焼き払い、田畑の作物を荒らし、乱捕りと言って、人や物を奪う・・・。これも作戦の一つでした。

敵地の農家へ押し入り、食料・牛や馬・家財道具・銭を奪い、女性に乱暴を働きました。敗けた城では何か月も人身売買の市場が開かれました。その後、売られた人々は、奴隷としてこき使われ、外国の商人に売られて、タイやカンボジアまで、送られた人々もいました。これが、雑兵たちの褒美になりました。

戦が終わった戦場では、村の農民たちが、転がった死傷者から金目の物を奪い、 商人に売り払うこともありました。けがを負った落ち武者たちを襲う落ち武者狩 りも多かったようです。明智光秀も落ち武者狩りで命を落としたと言われます。 ◆乱捕りと呼ばれるようすが、文章と絵に残されていますので、それを見てみま

しょう。



この絵は、大坂夏の陣で、家康側に追われた秀吉軍の人々が、城を追われて襲われているところ。 物を取られたり、人が連れ去られたりしている。

地売はく秀 獄り捕取吉 の飛虜りは よばと立九 うささて州 なれれたの 様た牛 °ー 子 よ払揆 だ りえを 0 もな制 た はい圧 る者し かはた に殺あ 安さと いれ年 值 ` 貢 段女を で子厳 供し

あ船なポ 日 る底くル 本 。に黒ト のマス船ガ 文カれにル オて買人 に地いた ま獄取ち でのりは 運責 1日 んめ手本 で苦足人 いににを るも鉄数 。似の百 た鎖、 状を男 態つ女 でけ関 、係 売くたき売薩 り、たんら摩 渡家めにれ軍 し畜、悩たが たの買ま。捕 よいさそ虜 う取れのに にって年し `た自 、た 島連分佐人 原中で賀々 にまものは 連で食人佐 れ養ベ々賀 てえてはま 行るい、で っわけひ連 てけなど行 まがかいし

たなっ飢て

鹿

児

島

 $\mathcal{O}$ 

戦

争

ポ

ル

1

ガ

ル

人

 $\mathcal{O}$ 

本

取限首 りな際 もく限 うごな しざく 候候切。。り 鼻捨 7 +四そ ` Ø 生ほ けか 捕、 り生 二け 十捕 人り

余際

岩

手

 $\mathcal{O}$ 

戦

これらの文章を読むと、負けた側の人々が、あまりに悲惨な目に合うことに驚く ことでしょう。胸が痛くなるほどです。

### 6 戦はこわくなかったのか?

ここまで、戦国時代の勉強をしてきて、戦国時代の戦いが、みなさんの予想より も残酷なことに驚いたかもしれません。

では、なぜ、戦国時代と言われるくらい、戦が多かったのでしょうか。

人々は、戦争がこわくなかったのでしょうか。

実は、勇気ある戦国武将と呼ばれる人々も、私たちと同じように、死を恐れ、戦 も怖れていたようです。その証拠が、いくつかあります。

その証拠とは何でしょうか。

まず、戦は、勝たなければ意味がありません。討ち死にすることが目的ではないのです。ですから、戦を始める前に、次のようなこと考えて、作戦会議を開いていたそうです。この内容を見れば、やはり勝つためにあらゆる手段をとっていたことがわかるでしょう。

- ・そもそも、戦うべきなのか。
- ・戦わなければならないのなら、どうすれば勝てるのか
- ・目標の拠点をどこに設定するのか。
- ・兵力や物資をどの程度用意するべきか。
- 話し合いの余地はあるか
- ・和議を結ぶための条件はどうするか。
- ・合戦を避ける余地はないのか。

そして、こういうことを判断するために、お坊さんなどのスパイを使って相手方の 情報を集めて、重要な判断をしたそうです。

また、それ以上にもっとはっきりとした証拠があります。このことを知って、私もやはり戦国武将たちも、戦を怖れていたのか、やっぱり人間だったと、ホッとしたことを覚えています。

まず、出陣のときの儀式が大切でした。

大将は出陣の前に食べなければならないものが三つ

うちアワビ・・・アワビの肉を細く切り伸ばして干した物

勝ち栗・・・栗の皮をとった物

昆布

この三つを食べれば、「打って勝って、喜ぶ」という意味だそうです。

また、城門の包丁の歯を上にして置き、それを踏み越えるという儀式は、留守中に 敵に攻められることを防ぐ願掛けだそうですし、出陣の時にも、犬が右に横切れば 凶、鳥が敵陣から自陣に入るのも凶、などのことも信じられていて、このような縁 起の悪い日には出陣を取りやめることもありました。勝つための縁起をかつぐのは、 当然のことでした。

他にも、出陣する時の禁止の条件も、たくさんありました。

たとえば、甲冑を北向きで着ること、戦に女性を連れて行くこと。出陣をする時の方角も北は凶で、東か南が吉、北の敵ならば、いったん東か南に向かってそこで向きを変える。出陣の際、左の落馬は吉だが右側は凶、弓の握り部分から上が折れれば吉、下が折れれば凶。犬が隊列を左に横切れば吉で右は凶。

出陣を避ける日は往亡日という縁起の悪い日で、春は 7・14・21 日、夏は 8・16・24 日、秋は 9・18・27 日、冬は 10・20・30 日には出陣しませんでした。

また、多くの武将たちが守り神を持っています。

たとえば、武田信玄と上杉謙信は毘沙門天、徳川家康は黒本尊、武将たちは兜の内側に小さな仏像を入れて、守り神としていたそうです。

たたりを怖れた当時の人たちは、亡くなった人々を手厚く葬ったことも記録に残っていますし、神仏を信じるのも、勝利を願い、もし亡くなった時にも成仏できるよう願っていたのかもしれません。

つまり、今のように医療が発達していない時代には、病気や戦で死ぬ人々も多かったでしょうし、人々は、今の人々以上にも死を恐れていたかもしれません。 ならば、なぜ、戦が多く、戦国時代と呼ばれるまでの時代になったのでしょうか。

最近、戦国時代頃の気象が話題になっています。

それ以前の時代や、江戸時代に比べると、気候としては、寒冷化していたのではないかと言われています。ヨーロッパでは氷河が増えて、地元の村までお品が割れたという記録が、この時期たくさん増えているそうです。

14世紀後半から17世紀の半ばぐらいまで、小氷河期にあたって夏の暑さが無い時期もあったため、飢餓が広がった・・・とされる研究も新しく出ています。

その説に従えば、例えば、山間の国、気候の変動の影響を受けやすい甲斐では、 1530年頃から、毎年、餓死・飢きんの字が記録されています。武田信玄の活躍はちょうどその時期に重なっています。信玄の戦は、飢きんを食糧確保で乗り越えよう

としたためかもしれません。また、京都では毎年のように、諸 国飢きん・天下大飢きんの文字も記されていますし、各地の記 録にも同じように書かれています。



また、災害もこの時期は極端にふえた記録もあり、台風、地震、火山の爆発、疫病が猛威を振るった時代のようすも描かれています。

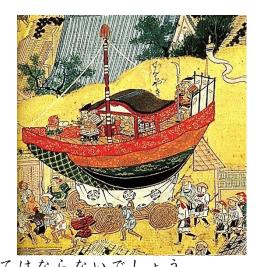
最近の日本でも、何百年に一度起こるか起こらないかのような阪神大震災、東日本大震災に見舞われ、自然の怖ろしさも実感しました。

これが、今の日本ではなく、当時の日本に起こったとしたら、津波、土砂崩れ、地震による水田の地割れなどで、いっぺんに食料を失うこともあっただろうと想像できます。

生き残るためにこそ、収穫された穀物を奪いあい、戦場でも人も財産も奪いあ う・・・そうした側面も、戦国時代の戦にあったと言われるようになりました。 当時の人々は、生き残るために、すべてを尽くしたのかもしれません。

しかし、一方で、戦国時代は、人口が増え、華やかで 自由な文化が生まれていたことも知られています。京都 の町を描いた洛中洛外図の屏風も見事な物ですし、そこ に描かれた人々も生き生きと暮らしています。

これらの華やかな文化の裏には、災害や飢きんを何とか生きのびようと、祖先がやりとげた技術と知恵が必ず



あって、戦国時代の問題を乗り越えていったことも忘れてはならないでしょう。

たとえば、農具の改良・鉄製品の普及・二毛作などの作物の多様化・草木灰や家 畜の糞の利用をした肥料などが、生産力を確実に上げました。

さらに具体的に例を出せば、武 田信玄は、信玄堤と呼ばれる堤防 を築き、川の氾濫をしずめて安定





的な米の生産ができるようにしました。金山開発も行ない、富を蓄積しています。

戦国大名や戦国時代の村が、自分たちで生き抜くために、知恵をつくし命をかけ ざるを得なかった・・・そして、人々が生き残っていった・・・それが、戦国時代 と言えばいいかもしれません。(これについては、また別に勉強すると大変興味深い ことがわかってきます)

まだ解けない謎は、たくさんありますが、その謎については、どうぞいろいろな 本を見たり、資料を読んだりして、調べてみませんか?

# 戦国時代の授業

## ねらい

- ①戦国時代の戦の真実を伝える。
- ②戦の中心は、雑兵だった。
- ③戦の目的は、食料を奪うことであり、食料不足が戦を招いた。

### 授業の構成

- |1| 戦の中心は誰か=雑兵たち
- 2 戦国時代の武将の名前を確認する。
- ③ 戦の準備=いつどこでだれが戦うか?
- 4 戦の実際のようす=戦い方、村の人々
- |5| 戦いの後で・・・ほうび、後始末
- 6 なぜ戦をしたのか?